

「脱炭素と自然最高に貢献するサーキュラーエコノミー(循環型経済)の推進を求める意見書」に討論します。

サーキュラーエコノミー(循環型経済)は、生物多様性の損失、気候危機、天然資源の枯渇などの根本原因に対処する経済モデルとして提唱された、大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした従来の経済システムに代わる新しい考え方です。

大量の製品を生産するのではなく、設計段階から廃棄物を出さないように製品やサービスをデザインすること。今あるものから最大限の価値を引き出し、自然の再生を目指し、メンテナンスや補修によりあらゆる物を長寿命化させること、物の価値を最大限生かし再資源化の方法をあらかじめ用意することなどが求められるものです。なにより、経済循環を生み出す活動での資源投入量及び消費量を抑えることが重要なポイントです。

例えば、サーキュラーエコノミーでは、生物学サイクルによる生物資源と、技術サイクルによる技術資源とを分けて考え、それぞれの循環サイクルで資源を処理できるように配慮することが必要です。すなわち木材と金属は使用後に分離しやすい設計にし、分離後の再利用・再資源化の仕組みと連動させていくことなどが求められます。

何より成長しない経済社会を構築することが必要です。それを前提に資源等を循環させていくには、様々な分野での連携も求められており、社会・経済の様々な分野、段階において、発想の転換が求められているものです。

本意見書では、主に使用後のリサイクル＝再利用・再資源化に関する要望が中心となっていますが、もっと川上である生産段階からの発想の転換を求める姿勢が必要です。地球沸騰化に対応するためのサーキュラーエコノミーをきちんと推進するには部分的で不十分ではありますが、資源の循環促進等自体は否定するものではありませんので、本意見書に賛成します。